

1 基本情報

(1)事業名	移住促進体験ツアー、お試し暮らし滞在費補助事業		ページ	23						
位置付け	基本目標B 移住促進と交流人口の増加 ①若者の移住・定住化を促進									
実施期間	開始年度	平成27年度	担当課	企画財政課						
	終了年度	平成31年度								
根拠法令										
関係計画	御宿町総合計画									
予算科目	会計	一般	款	2	項	1	目	4	事業	地域住民生活等緊急支援交付金事業(緑越)

2 事業目的・概要(PLAN)

目的	対象(誰・何を)	意図(どういう状態にしたいか)
	・地方への移住検討者 ・2地域居住の検討者	・社会動態の増加(転入者の増) ・交流人口の増加
手段	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等 <input type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> その他	
	御宿町の自然環境の良さを体験してもらい内容の移住体験ツアーを行う。また、お試し暮らしができる施設の提供を図り、移住促進に取り組む。	
町民ニーズ		

3 活動状況(DO)

実施内容	・移住体験ツアー：平成27年10月10日に実施。農作物の収穫体験や地域住民との交流会、アジ釣り体験などを行った。 ・お試し暮らしができる施設の提供・補助制度の運用：(長野県在住者の利用、平成27年9月2日～5日)						
課題への対応状況	ツアー参加者の目的を観光ではなく移住検討者とするため、ふるさと回帰支援センターで募集を行った。 ○募集方法：サンケイリビング新聞掲載、ふるさと回帰支援センターHP、御宿町HP						
重要業績評価指数 目標(実績)	単位	H26	H27	H28(予定)	H29	H30	H31
① 移住体験ツアー参加者	人	30(29)	20(11)	20(24)			
② お試し暮らし補助申請者	人		12(2)	6(6)			

4 事業内容評価・コスト分析(CHECK)

自己評価	<input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 概ね良好 <input type="checkbox"/> やや不良 <input type="checkbox"/> 不良		
	ツアー参加者の募集方法を、移住情報の提供等に特化するふるさと回帰支援センターのHPで行ったことにより、移住に関心がある方が多く参加された。アンケート調査では、将来、御宿町に移住したい(検討含む)人の割合は高く(11名中6名)、ツアー内容も好評である。		
環境変化	項目	変化の有無	変化の内容
	町民ニーズの動向		
	国・県・他自治体の動向	有り	千葉県：第1弾！しごとと生活体験ツアー(H28.930～10..2)

コスト (千円)	区分	H26決算	H27決算	H28予算	H29予算	H30予算	H31予算	
	事業費(千円)	A	748	713	787			
	合計	B	748	713	787			
	財源内訳	国庫支出金		713				
		県支出金						
		使用料等	C					
		その他特定財源						
		一般財源	748		787			
	分析指標	職員数	常勤	1	1	1		
			非常勤					
指標コスト		B/評価指標(千円)	25	54	21			
住民1人当たり負担額		B/人口(円)	96	91	101			
	受益者負担率	C/B(%)						

※1 人口は各年度の3月31日末現在の住民基本台帳登録人口を用 7,775人

5 今後の方向性(ACTION)

今後の課題	・若い世代は、「千葉県御宿町」の名前は知っていても、具体的なことまでは知らないことを認識する。 ・外房地帯は同じような地域が多いため、差別化を図り、御宿町ならではのアピール力が必要。	
今後の方向性	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政(直営) <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 町民・各種団体 <input type="checkbox"/> その他
	投入資源	事業費 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 人員 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小
今後の方針	移住促進事業は世代別の取組みが必要である。例えば、20～30代には御宿町を知ってもらう取組みを、40～50代は2地域居住のライフスタイルを提案、60代からは豊かな自然環境の中でアクティブな暮らしの提案や老後の安心した暮らし提案など。体験ツアーでは、参加者に御宿を知ってもらい、移住後の暮らしをイメージできるようなイベントを企画し継続的に実施したい。	

6 外部評価意見

<p>第1回委員会：平成28年10月18日(火)</p> ○体験ツアー参加者は60代以上が多いので、若者の目につく募集方法を検討してはどうか？ (良い体験ツアーなので、観光で御宿を知り、豊かな自然環境で子育てしたいと思ってもらえるようアピールしては？観光協会のホームページで募集など) ○地方創生を推進するため、プロジェクトチームを組織する必要があるのではないか？また、マンションや別荘を所有している方への働きかけが有効である。 ○子育て世代としてはツアー内容の魅力が足りない。農作物の収穫体験などは他の町でも実施している。(例えば、サーフィン体験ツアー、先輩移住者の暮らしぶりを全面に出して情報を発信する取組み、移住者の素敵な生き方や暮らし方をアピール(移住したくなる暮らしを提案) ○総合戦略の推進(全体)により人口減少対策に取り組むが、個別事業の成果の狙いを明確にし、また事業の組合せによる相乗効果をねらうなど、(短期の成果・中長期の成果) 全体の施策の中でどの部分に体験ツアーが位置付けられているのか？全体像の見える化を図る必要がある。
